

# 平成28年度 筑波大学附属図書館 事業報告

## クラウドファンディングによる支援金募集

## 学習支援



「筑波大学図書館資料購入プロジェクト」のページ

筑波大学とREADYFOR株式会社の業務提携を受け、「筑波大学図書館資料購入プロジェクト」を2017年1月26日に開始し、学生のための研究・学習用資料の購入、図書館サービス向上のための支援金を募集しました。

公開直後から予想を大きく超えるご支援をいただき、公開から6日で目標額の300万円を達成しました。そのため、当初計画していた中央図書館の資料に加え、各専門図書館の資料の充実を目指して次の目標額500万円を設定し、最終的に5,124,000円のご寄附がありました。

今回のクラウドファンディングでは、金銭的な支援だけでなく、多くの寄付者から寄せられた温かいコメントが附属図書館への大きな支援となりました。

## 体育・芸術図書館に「ユーリカ！」を整備

## 学習支援



学生との協働で整備した学習空間

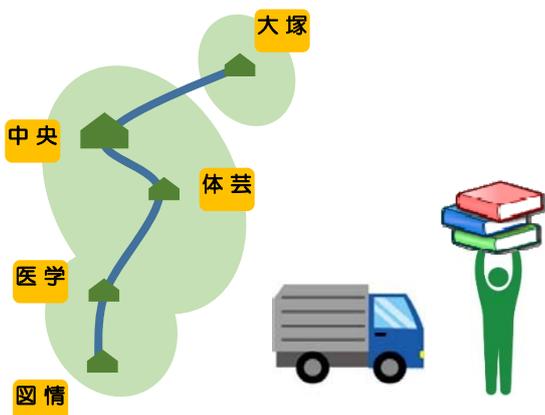
民間の財団から獲得した助成金を活用し、体育・芸術図書館に「アートとスポーツに特化した学習空間」を整備しました。

学生と職員とが協力して空間作りを行い、バランスボールチェアやデザイナーズ家具を置き、体芸らしさを演出しました。「Eureka」は、ギリシャ語で「見つけた」を意味し、アルキメデスが叫んだ言葉として知られています。学生が命名したこの愛称には「ひらめきの場所となるように」という想いがこめられています。

自主的なグループワークや授業など多様な用途で利用することができ、学生や教職員の成果発表の場として、作品を展示することも可能です。ショーケースには、1964年東京オリンピック関係資料も展示しています。

## 筑波キャンパス各図書館間での図書の取寄せサービス試行

## 学習支援



2016年2月より、筑波キャンパス内の各図書館間での図書の取り寄せサービスを試行してきました。今回の試行と従来のサービスにより「附属図書館5館のどこからでも取寄せができ、どこにでも返却できる」環境が整いました。この試行実績を実際のバスや自転車等での移動に換算すると862時間にも及びます。広大な敷地を持つ筑波大学の学生にとって、このサービスにより、時間や経費の節約ができ利便性を大幅に高められることがわかりました。

実施体制も確立できたことから2017年4月からは本格運用とすることを決定しました。

ラーニング・スクエアリニューアルによる知的交流活動の促進

学習支援



Yoga Talk & Exercise (6/21)

2016年3月末に中央図書館本館2階ラーニング・スクエアを大幅リニューアルし、グループ学習スペースの拡張を行いました。新しい3つの「チャットフレーム」は、ディスカッション等のグループ学習だけでなく、授業やセミナーの場としても活用されています。附属図書館で継続して開催している「ライティング支援連続セミナー」やラーニング・アドバイザーによるセミナーのほか、学生や教員からの申込みによる「哲学カフェ」、「アフリカ学術&文化週間」、「英語で学ぶ日本事情」等のイベントや授業、附属図書館と教員・他部局との共催による「Pepper朗読会」、「英語で申請書セミナー」等、多種多様な催しが開催されました。従来から学習・研究成果等の発表の場として利用されているギャラリーゾーンと合わせて、知的交流活動を促進する場として機能しています。

ライティング支援ポータル連絡会の活動

学習支援



海外ライティングセンター体験イベント (1/18)

全学のライティング支援の取組を集約した「筑波大学ライティング支援ポータル」の担当者による連絡会を組織しました。ポータルサイトでは、学内で開催されるアカデミックライティングに関する各種セミナーやイベントを紹介しています。今年度は比較文化学類と共催で、海外の研究者による海外ライティングセンター体験イベントと講演会を開催しました。学外からも多くの教員・職員が参加し、ライティングセンター設置にかかる関心の高さが伺えました。

オープンアクセス方針の推進によるつくばリポジトリコンテンツの拡充

研究支援



オープンアクセスについての展示  
Open Access Week 2016 (10/24-30)

2015年11月に採択したオープンアクセス方針は、所属研究者による学内教育研究成果、特に学術雑誌掲載論文について積極的なコンテンツ提供を求めるものです。今年度は同方針に基づき、つくばリポジトリへのコンテンツ登録を推進する活動を行いました。まず、出版社版原稿については、機関リポジトリ登録が可能な情報を積極的に収集することにより、その登録数は前年度より300件以上増加しました。10月には、オープンアクセス活動やこれに伴う論文のインターネット公開状況などを展示紹介しています。また、機関リポジトリへの教員理解を目指したオーダー形式による出張説明会を企画し、つくば・東京キャンパスにおいて実施しました。

附属図書館研究開発室の活動について

研究支援

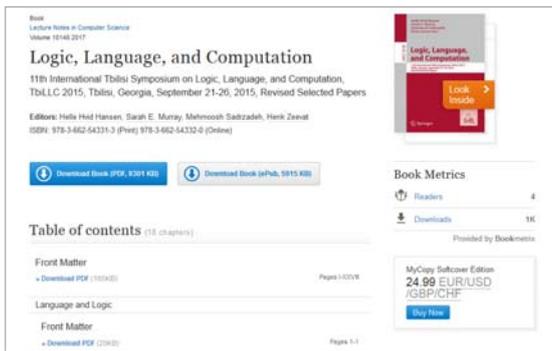


中央図書館で実験中のCrowd4U床システム

研究開発室は、図書館機能の高度化に資する研究および開発を行うために、2005年に設置されました。学内の教員と図書館職員等が協力して、図書館機能に関する調査・研究や、学術情報の収集・発信に関する調査・研究、図書館の教育研究支援に係る調査・研究等を中心に活動を行っています。今年度は、「学習支援活動の検討」や、「貴重資料の保存と公開」などの継続プロジェクト研究に加え、「図書のロボラスト性の評価」や「図書館システムの検討」などの新規プロジェクトも加わり、12名の室員で10のプロジェクト研究を行いました。プロジェクト研究の成果を学内にも広く還元するため、研究成果報告会も開催しています。

電子リソースの整備

研究支援



Springer eBooks:Computer Science

学術情報基盤として電子リソースの整備に努め、利用希望の多いWiley社のJournal of Polymer Science バックファイルを追加整備しました。これにより、1946年から最新号までの利用が可能となりました。

このほか、2005年から継続して整備しているSpringer社のComputer Science分野のeBook(2017)、ハンドブックとして定評の高いRoutledge Handbooks Online (2014 Full Package)、大日本佛教全書 全161巻(Net Library版)、Oxford English Dictionary(OED Online)、日本の産業政策・産業行政の歴史を研究するための第一級の史料群である通産政策史資料 オンライン版などを整備し、研究支援環境の強化を図りました。

2016年度附属図書館特別展「歴史家 二宮宏之の書棚」を開催

社会貢献



内覧会の様子

10月11日から11月13日まで、中央図書館において人文社会科学部との共催による特別展を開催しました。これは、筑波大学附属図書館に寄贈された約9000冊の二宮氏旧蔵書から貴重書を中心に、フランス絶対王政期を専門とした歴史家二宮宏之の肖像と仕事を紹介し一般に広く公開するものです。

特別展では、二宮氏と交流のあった日本とフランスの歴史家の書物や、研究の過程でひもとかれた書物などを中心に約50点の資料を展示しました。また、岩波書店の後援を受け二宮氏直筆の書簡や校正朱筆などの展示も行い、観覧者の関心を集めました。

会期中には、二宮氏の教え子を招いての座談会や、本学教員によるギャラリートークなどを開催し、学内外から1968名が訪れ貴重な資料を観覧しました。

附属学校等への学術情報提供の強化

社会貢献



附属駒場高等学校図書室の様子

附属学校等に対する学びの支援のため、貸出制度の整備を進めました。今年度は駒場高等学校と坂戸高等学校へ図書の貸出を行い、複数の授業で大学図書館の蔵書が有効に活用されました。

また、学術論文の検索に役立つ英語論文データベース「Web of Science」を、附属学校を含めた契約に変更し、附属高等学校3校でのアクセスを可能としました。グローバル人材育成を視野に、高校生向け情報検索プログラムの検討も行いました。

さらに、次年度以降の連携協力について、附属高等学校3校の図書館関係者と懇談を行うと共に、近隣の竹園高等学校と茗溪学園高等学校を訪問し教職員と情報交換を行いました。

屏風修復助成金の獲得

社会貢献



修復前の「野外奏楽図」

附属図書館で所蔵している狩野探幽筆「野外奏楽、猿曳図」は、1650-1660頃に制作された草体の画風を示した六曲一双の屏風で、江戸前期狩野派の動向を知る貴重な資料です。当該資料は、2000年に旧蔵資料の中から発見され経年劣化が見られる状態ですが、展示公開の要請も多く、大学の学術資料の活用、文化資源の将来への承継のためにも修復の必要がありました。

今回、附属図書館では公益財団法人出光文化福祉財団平成28年度美術品修復助成に応募し、修復費用のうち600万円を獲得できたことは大変喜ばしいことです。屏風の修復は、2017年4月から2年がかりで行われ、修復後は特別展示を開催する予定です。

期日前投票所を設置

社会貢献



期日前投票所

学生による展示  
「投票に行こう！」

第24回参議院議員通常選挙にあたり、去る6月27日(月)から29日(水)までの3日間、中央図書館に期日前投票所が設置されました。これは、公職選挙法の改正により、選挙権年齢が20歳以上から18歳以上に引下げられることに伴い、学生等の要望を受け、つくば市選挙管理委員会が設置を決定したものです。投票時間は、学生側の要望どおり、午前11時から午後7時までとなり、また、投票立会人には学生も参加し、3日間で約500人が投票に訪れました。

会場となった中央図書館では、学生による関連展示やトークイベントも合わせて実施され、期日前投票の方法等について周知を図るとともに、今回の選挙の争点について意見交換をするなど投票への関心を高める取組みも行われました。

なお、期日前投票所は、11月のつくば市長選挙・つくば市議会議員一般選挙にあたっても設置されました。

附属図書館プロモーションビデオの制作

情報発信



プロモーションビデオ制作風景

学生や学外者に附属図書館のイメージと魅力を簡潔に伝え、来館利用を促進する目的で、附属図書館プロモーションビデオを制作しました。

制作は、芸術系の村上史明先生にご協力いただき、芸術専門学群の学生にお願いしました。学生にとっては、よい実習の機会となるとともに、図書館にとっても学生目線を取り入れつつ、完成度の高いビデオを作ることができました。

ビデオは、新入生ガイダンス等で活用するとともに、学内や館内のデジタルサイネージでも投影していきます。図書館のYouTubeチャンネル：UnivTsukubaLibrary-pv でも公開しています。

図書館キャラクターの活躍

情報発信



Tsukuba Global Science Week 2016にて  
ちばてつや氏をはじめとする登壇者の方々と

筑波大学附属図書館の公式キャラクター「がまじゃんぱー」は、昨年に引き続き、第18回図書館総合展(11月8日～10日、パシフィコ横浜)で開催された「図書館キャラクターグランプリ」において、「ウェブ応援賞」最優秀賞をはじめとする4つの賞を受賞しました。

がまじゃんぱーは、その親しみやすさにより、附属図書館の広報活動において活躍しているところですが、今年度は、図書館の外へも活動の場を拡げました。

Tsukuba Global Science Week 2016「産官学連携コンテンツビジネスがひらくいばらきと世界の未来」セッション(9月19日、つくばカピオ)にて図書館における広報キャラクターの活用について事例報告を行いました。また、職員採用説明会(6月5日)、内定通知書交付式(12月1日)の際にも、応募者、内定者の方々と触れ合うなど、筑波大学のイメージアップに貢献しました。

筑波大学附属図書館  
平成29年3月31日